

特集

NPOをまわす運営術その④ 人編

# NPOを支える人びと

●ちょっと気になる、いしかわのNPO

NPO法人 白峰スノースポット

●いしかわのNPO

NPO法人 金沢アート・チャリ推進機構

NPO法人 のとキリシマツツジの郷

●ジュニアVOICE

石川県立津幡高等学校

シリーズ

協働をすすめる ワークショップ入門③  
『取り組みをふりかえる+αで次のステップ』

●書籍紹介コーナー

●インフォメーション

- ・県からのお知らせ
- ・助成金ニュース

つながる、  
ひろがる、  
ふれあう。

石川県NPO活動支援センター

URL <http://www.ishikawa-npo.jp>

# NPOを支える人びと

NPOをまわす運営術シリーズでは、NPOの経営資源である「ひと・もの・かね・情報」にスポットをあてながら、NPOの運営について考えてきました。

最終回となる4回目では、NPOの最も大切な経営資源である「人」がテーマです。

NPOに関わる人は理事、非常勤スタッフ、常勤スタッフ、ボランティアなど多様です。寄付をしてくれる支援者、NPOの活動に参加する一般市民もいます。今回の特集では、特に、NPOの運営という観点から、NPOで働く人々に焦点をあててどのような「思い」を持って活動に携わっているか、どんな毎日を送っているのかを取材し、NPOに求められる人材像に迫ります。



## NPO最大の経営資源「人」

これまで、特集してきた「もの・かね・情報」などの経営資源を上手に集めて、やりくり(経営)していくのは他ならぬ「人」です。NPO最大の経営資源が「人」である理由です。お金はなくても、お金を集められる「人」がいれば、「情報」がなくても、「情報」を収集できる「人」がいれば、「もの」がなくても、「もの」を生み出せる「人」がいれば良いのです。そして、NPOの掲げるミッションに向かって、具体的な活動を起こしていくのです。

## 共感のネットワークがNPOを育む

NPOは、社会の様々な課題に対してアプローチをしていく組織です。NPO(市民)セクターとその他のセクターとの違いを見てみると「行政」は公平・平等の原理で、「企業」は競争原理に基づいて経営を行うのに比べて、「NPO」で重視されるのは「共感」の原理です。NPOが掲げるミッション(使命)への共感をいかに広げられるかが、NPOの運営を左右するといっても過言ではありません。

それでは、県内のNPOで働く人々の声から、NPOに求められる人材について考えてみましょう。

## NPOで働くことや関わること

NPOで働いている人たちは、どのようなきっかけで関わるようになったのでしょうか。県内で活躍している3人の方にお話を伺いました。

### 子ども夢フォーラム

#### 高木代表のある1日

|       |                                                                                 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 9:30  | 事務所 掃除                                                                          |
| 10:00 | 業務開始 メールチェック・返信など<br>前日の資料整理<br>きょうの講座資料準備<br>講演用・研修用資料作成<br>報告書用原稿執筆<br>電話相談対応 |
| 13:00 | 打合せ用資料チェック(兼、昼食)                                                                |
| 13:30 | 打合せ                                                                             |
| 15:00 | 原稿執筆                                                                            |
| 16:00 | N市の講座会場へ移動                                                                      |
| 18:00 | 講座実施                                                                            |
| 20:30 | 帰宅                                                                              |
| 22:00 | 資料用の調べ物                                                                         |
| 24:00 | 就寝                                                                              |



子ども夢フォーラムでは、子どもたちが個性を活かし、お互いを認め、尊重しあいながら、自分を大切にできるよう、子どもの気持ちを電話で受けとめる「チャイルドライン」や研修会、講座などの活動を通して、子どもたちをサポートしていくことをめざしています。

2000年 の5月と12月、そして2001年の5月の3回、期間限定で【チャイルドライン・いしかわ】を実施し、全国はじめてフリーダイヤルでの実施を実現しました。その実施のたびに、子どもたちからはひっきりなしに電話がかかってきました。子どもたちが「気持ちを聴いてもらえる場」を求めていることが、電話をとおして、ひしひしと伝わってきます。

今は週2回(金・土)フリーダイヤルでの子どもたちからの不安や悩みの声を聴いています。2008年4月から、子ども夢フォーラムは、「子どもの権利擁護支援室」を石川県からの委託で運営しています。これにより、子どもや子育てに悩む大人の相談も受けるようになりました。ここでも「聴く」姿勢を大切にしながら、子どもの声から学んだことを基にご相談に応じています。

#### <NPOとの出会い、関わったきっかけを教えてください>

ボランティア活動が続けてく中でNPOの動きが日本にも表出し、その経緯を見守り、情報を得てきました。行政や企業の枠を超えたところで柔軟に関われるNPOが私の活動の性格と一致しており、ふさわしいと感じました。

#### <NPOで働くことに求められる心構え、あるいはどういう思いで関わっていますか>

行政や企業と性格を異にするとはいえ、NPOにも、きちんとした組織づくりが重要と考えている。法人格を取得しているのかにかかわらず、運営面や社会発信における大きな責任があることを認識しながら取り組む必要があると感じています。

#### <ボランティアスタッフは組織にどのように貢献していますか>

活動をすすめていく上で、ボランティアは重要な役割を果たしてくれています。特に、子ども専用電話「チャイルドライン・いしかわ」の活動では欠かせない存在です。そして、ボランティアに関わる人たちが活動の目的を理解し、ボランティアの重要性や必要性を感じられるよう、モチベーションの維持に努めていくことが大切です。

## NPO法人はづちを

活き活きとした町には魅力があります。そこには地域に根ざした歴史や自然の恵み、その特色を知る様々な人々の知恵や願いがまちづくりに反映されているからです。21世紀は住民や市民による自主的な地域コミュニケーションが地域発展に欠かせない大切なキーワードです。そして、その環境の充実には商工観光にも必ず還元されます。われわれは、その大切さをこの町に感じ、地域のコミュニケーションをサポートする為、地域の住民による団体を設立することに致しました。また、加賀市が山代温泉共同浴場前に建設している施設を『はづちを楽堂』と名づけ、2002年6月から地域交流の拠点として皆様と共に我々が運営を致します。

『二十一世紀は“心”が豊かさを支える』『高齢者と児童』の二つがキーワード。産業や商業的価値観からのアプローチをせず、住民や利用者サイドの心の豊かさを模索した事業展開を行います。

#### 河崎事務員のある1日



|       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 8:00  | 出社、施設内の清掃、団体主催の教室(手前みそ教室)開催準備 |
| 9:30  | 手前みそ教室の講師との打合せ、参加者の受付、手伝い     |
| 12:00 | 教室の片づけ                        |
| 13:00 | 昼食                            |
| 14:00 | 茶店の手伝い                        |
| 15:00 | 広報誌の作成、来月の施設利用スケジュール作成        |
| 17:00 | 支払い作業                         |
| 18:00 | 茶店・土産屋の片づけ                    |
| 18:30 | 施設利用人数の集計                     |
| 19:30 | 帰宅                            |

## NPO法人はづちを

### ＜NPOとの出会い、関わったきっかけを教えてください＞

学生の頃から地域社会に貢献できる仕事につきたいと考えていました。最初は公務員を目指していましたが、大学で受講した行政に関する講義を通じて住民のニーズを実現させるうえで地域のNPOが積極的な役割を果たしていることを学び、それをきっかけにNPOに関心を持つようになりました。

### ＜NPOで働くことに求められる心構え、あるいはどういう思いで関わっていますか＞

当団体の活動は、地元の自治組織や市が企画する行事や催しへの協力、地元住民と観光客が共に利用する茶店や土産処の運営など、市の職員から地元住民まで様々な機関や人との関係の上に成り立っています。そのような「人同士、組織同士の繋がり」に配慮することが働く上で特に重要であると思い、地元の方の要望や観光の方の質問に親身に対応し、市や他の自治組織との信頼関係を築きながら事業協力を行うように心がけています。

### ＜ボランティアスタッフは組織にどのように貢献していますか＞

現在はづちをにはボランティアスタッフは不在ですが、コミュニティ・レストラン事業を行っていた2008年4月までは、朝食サービスの提供をサポートするボランティアスタッフが働いていました。朝食ボランティアのおおくは地元の60歳前後の主婦で、それぞれ来る曜日を決めてローテーションを組んで専属スタッフと共に朝食づくりを行っていました。



## NPO法人さわやか いいね金沢



### 中野理事長のある1日

|       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 6:00  | 起床身支度                            |
| 6:30  | 愛犬と散歩&町内の神社・お寺お参り                |
| 7:00  | 動物の世話、朝食(愛犬6匹・愛猫4匹)              |
| 7:30  | 神棚・お仏壇のお参り、人間の朝食用意               |
| 8:15  | 訪問介護先へ                           |
| 9:45  | 出社(メールチェック、今日の予定把握、電話連絡、打ち合わせなど) |
| 12:00 | 昼食                               |
| 13:00 | ヘルパー研修準備                         |
| 13:30 | ヘルパー研修(事業所にて)                    |
| 15:20 | 訪問介護先へ                           |
| 16:40 | 事務処理、相談業務                        |
| 18:00 | 退社                               |
| 18:00 | 自宅にて仕事の残りを処理、電話応対、夕食             |
| 23:00 | 愛犬・愛猫と就寝                         |

さわやかいいね金沢は、助け合いの精神に基づいた「ふれあい社会」をつくるために、金沢市とその近隣の住民と協力しながら、高齢者支援や子育て支援などの福祉サービスを提供することを通して、地域コミュニティづくりや、生きがいを感じられる福祉社会の実現に向けて取り組んでおります。病気の時、からだが弱っているとき、ひとりではできないとき、ちいさな助けがほしいとき、そんなときお手伝いします。

例えば、

- ★家事援助 買い物、掃除、洗濯、食事の用意、話し相手、庭の草むしり、家周りの手入れ
- ★外出援助 病院の診察の付き添い、日用品など買い物の同行
- ★育児支援 ベビーシッター、託児、などサービスを「受ける人」と「手伝える人」が対等な関係を保ちながら誰もが安心してこころ豊かに暮らしていけるふれあいのある地域づくりをめざしています。ふれあいサロンでは、手づくり教室、ミニ講座、育児講座などを開いています。

### ＜NPOとの出会い、関わったきっかけを教えてください＞

平成12年に病気がきっかけで、「職業情報分析講座」という講座を受けた時、講座の内容はほとんどがNPOのことでした。その中で富山の「このゆびと〜まれ」の惣万<sup>そうまん</sup>さんの講義があり、惣万さんの考え方に共感し団体を立ち上げようと思いました。

### ＜NPOで働くことに求められる心構え、あるいはどういう思いで関わっていますか＞

この言葉は何年か前に金沢市社会福祉協議会の冊子に乗っていた言葉ですが、当事業所に張ってある名言です。ボランティアは、決して他人のために自身を犠牲にすることではありません。自分の好きなことをすることが誰かの役に立ったり、いろんな人と充実した時間を共有することに生きがいを見出したり、そうボランティアは、自分自身のものでもあるのです。

### ＜ボランティアスタッフは組織にどのように貢献していますか＞

ボランティアスタッフが貢献しているというより、スタッフが組織を作ってくれていると思います。スタッフがいないればさわやかいいね金沢も存在しないですね。

## NPOの人材をどう資源とみるか？

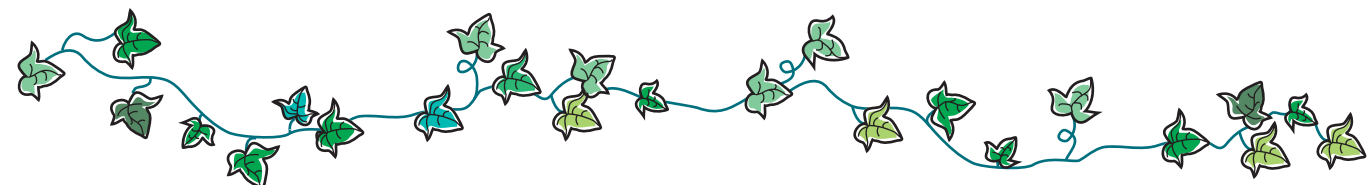
NPOの人材には大きな特徴があります。「自発性」「自主性」に基づいたミッションへの理解です。しかし活動する立場に応じて理解の幅は多様であることもその特徴です。

最近、「NPOで働きたい」という若い世代が増えているそうです。NPO運営について実務的な勉強をしたいという人も増えています。でもそれだけが団体にとっての「人的資源」ではありません。団体の持つ使命を達成するために、多様な役割を担える人材がその周囲にたくさんいることを忘れてはいけません。自分と同じ人間は世の中にはいないのです。みんなが違う質の「自発性・自主性」を持っています。NPOの現場こそ、そうした個性を伸ばしてあげる学習の場と考え、たくさんの「人的資源」を増やしてみてもいいかがですか。

## 今日的リーダーに求められるもの

NPOの活動は、リーダーの能力や資質によるところが多いといえます。最近、「理事長が変わった」「事務局長が変わった」という団体の声を耳にするようになりました。NPO法施行から11年も経つと、そろそろ創成期から成熟期に、また、メンバー個々の能力も高い段階に入った団体も出てきたのでしょうか。強烈的リーダーシップで采配するタイプから、構成メンバー全体に仕事を割り振り、人を調整するコーディネート能力の高いタイプの方が見られるようになりました。

使命達成のための息の長い団体運営には、団体の成長に見合ったタイプのリーダーが求められるようです。

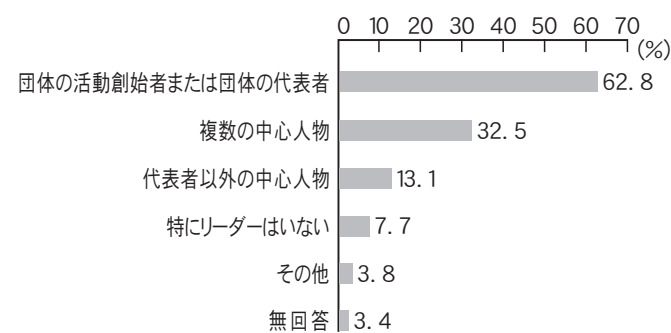


## リーダーの担い手・養成方法

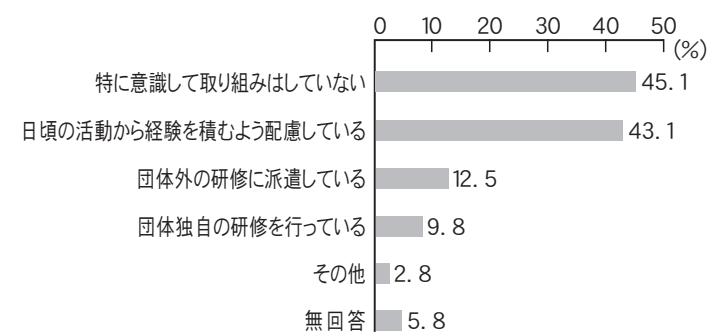
リーダーの担い手についてみると「団体の活動創始者または代表者」が62.8%で最も多く、次いで「複数の中心人物」32.5%、「代表者以外の中心人物(事務局長など)」13.1%、「特にリーダーはいない」7.7%と続いている。(図表1参照)

また、都市規模が大きいほど、また会員数が多いほど「代表者以外の中心人物」の割合が高い傾向がみられる。

図表1 リーダーの担い手 (N=4,379、複数回答)



図表2 リーダーの養成方法 (N=4,379、複数回答)



リーダーの養成方法についてみると、「特に意識して取り組みはしていない」45.1%で最も多く、次いで「日頃の活動から経験を積むよう配慮している」43.1%「団体外の研修に派遣している」12.5%「団体独自の研修を行っている」9.8%となっている。(図表2参照)

また、都市規模が大きいほど、また会員数が多いほど「日頃の活動から経験を積むように配慮している」割合が高い傾向が見られる。

平成20年度市民活動団体等基本調査報告書(内閣府)より抜粋

## NPO法人 金沢アート・チャリ推進機構

理事長 坂本 英之  
http://www.charideart.jp

### 設立の経緯

金沢21世紀美術館を中心としてまちなかに点在するアートスポットを気軽にオシャレに回遊したいとの思いから『チャリdeアート』を推進するための活動母体として、デザイナー、クリエイター、鉄工所経営者、まちづくりコーディネーターらで法人を設立しました。



▲第1次試作車に試乗する

### 事業内容

ユネスコの創造都市ネットワークに認定され、これからのクリエイティブ・ツーリズムを模索する金沢市、その回遊手段に最も相応しいのがアート感覚溢れたチャリです。金沢21世紀美術館のオープンに合わせて2004年と翌05年にアートなレンタサイクルの社会実験が行われました。

その実用化に向けて市民セクターが動き出しました。

金沢オリジナルのデザインのチャリ本体のみならず、雨が多い金沢で必需品のレインウェアもデザイン開発します。さらに、運用システムの研究開発事業にも取り組みます。

まちなかのライフスタイルを快適で楽しくする自転車を構想し、09年10月には第1段階の試作車を制作、同美術館の周囲を試乗してもらいました。10年5月には公道を走ることができるモデルを制作し、レンタサイクルのシステムを実証していきます。行政セクターでは実現できないオシャレでユニークなシステムを金沢で定着させ、『チャリdeアート』に乗り金沢へ行くという来訪客を生み出すことが我々の夢です。



▲様々なデザイン提案

## NPO法人 のとキリシマツツジの郷

鳳珠郡能登町字笹川口部38-3  
理事長 宮本 康一

### 設立経緯

私達の法人は、昨年の4月24日に設立したできたてホヤホヤのグループですが、会員はのとキリシマツツジの花より赤く燃え上がっている熟年パワーの団体です。

設立の目的は、能登地方に点在するキリシマツツジの古木の調査と保存・育成に努め、その情報を発信することで、能登空港へ多くの人々が訪れ、「あえのこと」や「輪島塗」あるいは「能登野菜や寒ブリなどの食菜」など歴史と文化に接していただくことです。



▲記念祝賀会

### 事業内容

今までの取り組み実績としまして、5月3～5日の能登空港前広場での「のとキリシマツツジフェスティバル」や名誉会員であります倉重新潟県立植物園副園長、小林島根大学生物資源科

学部准教授によります「ツツジ科の品種鑑定会（鑑定書の発行）」（史上初）と「隠れた古木の発掘研究」及び、県が実施していますオープンガーデンの更なる充実に向けてオープンガーデンの先進地である長野県小布施町の視察を11月に実施。また、副理事長の水木氏による職業専門学校での講義と実技指導などに取り組んできたところです。

今後は、のとキリシマツツジを冠とした料理やお酒を含めた土産品の開発を早急に取り組み「能登ブランドの向上」に役立ちたいと念じております。

また、本年3月2日より新宿御苑アートギャラリーで「盆栽及び写真の展示会」を実施しますし、来年も関東で同様のものを開催できるよう模索しております。4月には県庁19階ホールでの展示会を実施することとしていますので、皆さん是非足を運ばれるよう期待しております。

なお、これらの取り組みは、実績評価の高いのとキリシマツツジ連絡協議会や柳田盆友会の深い理解と協力をいただきながら進めております。



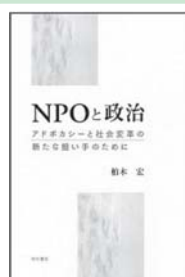
キリシマツツジ▶

## 新刊・おすすめ図書

紹介



コーナー



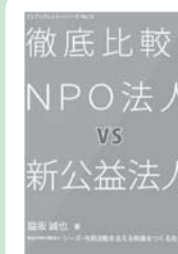
**NPOと政治**  
アドボカシーと社会変革の新たな担い手のために  
著 者：柏木 宏  
発 行：明石書店  
定 価：2,300円＋税  
発行年月：2008年3月

NPOとは非営利組織であり、社会的な公益活動を行うものだが、政治にカネがつきものならば、NPOは政治に関われないのかー税制、選挙活動、行政委託・補助事業など、NPO先進国アメリカの豊富な事例分析をもとに、日本におけるNPOと政治のあり方を考察・提言。

認定NPO法人セミナー講師で、制度に精通している脇坂氏が、日本初の実践的認定申請解説書を書き下ろし！認定NPO法人制度の概要やパブリック・サポート・テストなど認定要件から、実際の申請書類作成までが、大変分かりやすく解説されています。第四章では、国税庁に提出する実際の申請書類様式を使いながら、申請書類の書き方まで丁寧に説明。皆さまの認定申請ハンドブックとして、ぜひご活用ください！



シリーズ・ブックレットシリーズ No.9  
**とるぞ!! 認定NPO法人**  
～認定NPO法人制度の概要から申請書の書き方まで～  
著 者：脇坂 誠也  
編集デザイン：西畑ありさ（鴻遼堂）  
定 価：1500円（送料・振込手数料別）



シリーズ・ブックレットシリーズ No.10  
**徹底比較! NPO法人 VS 新公益法人**  
著 者：脇坂 誠也  
編集デザイン：西畑ありさ（鴻遼堂）  
発 行：シーズ・市民活動を支える制度をつくる会  
定 価：500円（送料・振込手数料別）

皆さまからのご要望にお応えし、大好評の「とるぞ!!認定NPO法人」を執筆した脇坂氏が、分かりやすい解説書を書き下ろし！これから法人格を検討される方はもちろん、NPO支援組織や行政、企業の方など、幅広い方々にお勧めです！NPO法人や新公益法人制度の講座・研修・セミナーのテキストとしても最適です！



協働をすすめるワークショップ入門 その④ 最終回

ワークショップ第4回

## 『取り組みをふりかえる +αで次のステップへ!』

金沢市協働をすすめる市民会議 福多 唯

第1回～第3回のワークッショッは毎週もしくは隔週で行いますが、第3回～第4回の間は実践のため長めの期間を取ります。第4回では報告会をしながらふりかえります。

＜必要な準備物＞

- (1) お茶や簡単なおかし、タイマー、鉛筆、名札、メモ用紙など、ワークショップに必要なもの
- (2) 各チームが報告・発表するのに必要なもの、機材

### 第4回ワークショップのすすめかた

| すること                  | 所要時間<br>(経過時間) | 内 容                                                                                            | ねらい、備考                                                                                              |
|-----------------------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①                     | 10分<br>(10分)   | これまで同様、オリエンテーション+自己紹介                                                                          | 自己紹介は「XXチームの〇〇です。」と挨拶程度でもOK。                                                                        |
| ②<br>各チームより報告会        | 40分<br>(50分)   | 40分をチームの数で割り、1チームが報告に使える持ち時間を算出。それぞれ、自由な方法で発表してもらう。                                            | ・発表方法は自由に。口頭での発表、資料や成果物の配布、パワーポイントを使う、実演など                                                          |
| 休憩                    | 10分<br>(60分)   | スタッフは発表機材の片付けや、会場のセッティング(みんなが輪になれるように)を行う                                                      |                                                                                                     |
| ③<br>各プロジェクトへのフィードバック | 40分<br>(100分)  | 各プロジェクトについて、他チームだった参加者から感想や意見をフィードバックする。<br>※「まずはAチームのプロジェクトについて、どうでしたか」「次はBチームについて…」と順番に進行する。 | ・「よかったと思う点」「工夫されていると感じたこと」を伝えよう。<br>・コンペではなく学びの機会。プロジェクトの成否や優劣を問うよりも、「どんな思いで、何をして、どんな体験をしたか」を語り合おう。 |
| ④<br>各自がこの連続講座全体を振り返る | 15分<br>(115分)  | ひとりひとことずつ話す。<br>※協働の手法を経験して感じたこと/よかったこと/わかったこと/もっと学んでみたいこと                                     | タイマーをつかう                                                                                            |
| ⑤<br>次のステップに希望をつなげて終了 | 5分<br>(120分)   | 進行役は参加者へ参加をねぎらい、「学んでみたいこと」として挙げられたことに触れるなどして、「またいつかそのあたりを一緒に学べたらいいですね」などして場をしめる。               | ・参加者全員で名簿を作るなど、連絡先情報の共有を提案。連絡が取れれば、次につなげやすい。                                                        |

鉄は熱いうちに打つべし。参加者の意欲の高さや絆を感じられたら、プラスαとして『振り返りのための集まり』を行い、次のステップへの道筋を作ります。

著者らが企画運営したワークショップ参加者は、1ヶ月後に同窓会をしました。そこで「コミュニケーションスキルをもっと学びたい」という声があがり、数ヶ月後には学習会が実現しています。最初のワークショップの1年後には実践側、つまり、く『協働と出会う』ためのワークショップの企画運営スタッフとなった参加者もいました。まさに『参加から協働へ』です。

今回のシリーズ連載が、各地で協働の体験者と実践者を増やす仕組みづくりのお役に立てれば幸いです。

ちょっと気になる、いしかわのNPO

## NPO法人 白峰スノースポット

Vol.24

### 『地域の人たちが一丸となってスキー場を守る』

#### 全日本認定のアルペン競技スキー場

「白峰温泉スキー場桑島側の斜面にある、ヤングバレーゲレンデは県内唯一の全日本スキー連盟公認コース(大回転)があり、石川県の大会は全てここで開催されています。」と、意気揚々に語り始める小田吉一理事長。

スキー人気はバブル期の1990年を境に急降下し、白峰温泉スキー場は市での運営が困難となりました。このままではスキー場が廃止になってしまう! そんなわけにはいかない! と、私たち地元の人々がそう思いました。ここ、ヤングバレーゲレンデは石川県でただ一つの全日本スキー連盟公認コースで非常に評判の良いコースなのです。ここがなくなると地元の競技スキーヤーのレベルが下がってしまう、優秀な選手が育たない、それでは困る、と地元の人々が立ち上がりました。署名活動をしてどれだけこのスキー場が重要かを訴えました。そして2万人の署名を集めて市に提出し、この白峰スノースポットを作るにいたりしました。



▲アルペンスキー大会

ヤングバレーゲレンデ  
ゲレンデ一日券  
小学生以上 2000円  
ゲレンデシーズン券  
一般 5000円  
小学生 3000円

練習風景▶

私たちが任されているこのスキー場の管理は1月から3月までの間です。しかし、1月になって「雪が降った、雪固めた、オープンだ」というわけにはいきません。10月からスキー場の草かりと整備、掃除を2ヶ月かけて実施します。ボランティアで地元の住民や中学校、石川県スキー連盟の方々に協力していただいています。「このスキー場はなくてはならんものだ。みんなで見守ろう!」という気持ちが人々を動かしています。



▲白山市体 小学男子組 入賞式

#### 目標はこの地で石川冬季国体を

このゲレンデを小さい子どももシューっと降りてきます。地元の子どもの良い選手に育つと地元の人々も盛り上がり、ここで大きな大会があれば他県から人がやってくるでしょう。選手だけじゃなく、付き添いの人もここ白峰にやってきたらここには温泉もあるし、地元の昔からの食べ物、特産品も食べてほしいし、珍しい民芸品もあるんです。自分の暮らしているところだと目が見慣れてしまっていて珍しいとも思わないんですけど。きちんと向き合うことで、ここは他と違う、ここをPRすれば観光客が喜ぶだろうな、という発見につながるんです。

「この白峰の人口は約1200人です。その内の二割は高齢者です。私もあと20年したら高齢者の仲間入りです。その時にこの白峰がどういう発展をしているのか。よりよい街になってほしいから、今はその基盤づくりをしているんです。」と熱い思いを小田さんは語ってくれました。

白峰では古民家を再生した雪だるまカフェをやっています。名物である「おろしうどん」や「ぼたもち」などの飲食できます。  
営業日4月～11月(火曜日は定休日)  
※12月～3月については、予約(5人以上)のみ開店しています。

白峰温泉総湯も平成20年11月9日に、新しく建て替えし、オープンしました。新しく露天風呂・サウナも完備されたので皆さん是非白峰へ遊びに来てくださいね。



白峰スノースポット 理事長の小田さん

〒920-2501 石川県白山市白峰イ52番地  
白峰スキー場ヤングバレーコース  
TEL:076-259-2363  
E-mail:npo-sss@shiramine.jp

# INFORMATION

## 県からのお知らせ

### 特定非営利活動法人の 事業報告書提出について

特定非営利活動法人は、特定非営利活動促進法（以下「法」という。）第29条第1項の規定により、事業報告書など法定の書類を事業年度の初めの3ヶ月以内に提出していただくことになっております。

【参考】法定の提出書類

- ①事業報告書等提出書
  - ②事業報告書
  - ③財産目録
  - ④貸借対照表
  - ⑤収支計算書
  - ⑥前事業年度の役員名簿
  - ⑦前事業年度の社員のうち10人以上の者の名簿
  - ⑧定款（記載事項に変更があった場合に提出）
  - ⑨定款変更認証書の写し（定款変更認証を受けた場合に提出）
  - ⑩登記事項証明書の写し（定款変更にとまって登記の変更があった場合に提出）
- ※提出部数は①のみ1通、その他の書類については各2通です。

お問い合わせ先

石川県NPO活動支援センター  
〒920-0962 金沢市広坂2-1-1  
石川県広坂庁舎4階  
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559  
URL <http://www.ishikawa-npo.jp/index2.html>  
Email [npo@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:npo@pref.ishikawa.lg.jp)

## 助成金ニュース

### 全労災地域貢献助成事業

#### ●助成対象となる活動

1. 環境分野
  - ・地域の自然環境を守る活動
  - ・循環型地域社会を作るための活動
  - ・地域の自然や環境の大切さを学ぶための活動
2. 子ども分野
  - ・子どもたちの豊かな遊びの場をつくる活動
  - ・子どもたちが交流し学びあえる場をつくる活動

#### ●助成対象団体

日本国内を主たる活動の場とするNPO法人、任意団体等（NGO、ボランティア団体等）

#### ●助成内容

助成総額は2000万円を予定しています。

1団体に対する助成上限額30万円。応募は1団体あたり1事業のみに限らせていただきます。

#### ●応募受付期間

平成22年4月5日まで

お問い合わせ先

全労災 経営企画部内 地域貢献  
助成事業事務局  
TEL 03-3299-0161 FAX 03-5371-2685  
URL <http://zenrosai.coop>  
Email [90eco@zenrosai.coop](mailto:90eco@zenrosai.coop)

### 「川に学ぶ」活動助成

河川・海岸等の水辺空間に関して、市民の方々の関心を高め、水辺へ親しむ心を促進するため、市民団体等が河川・海岸等の水辺で行う活動やかわまちづくり等の活動に対し、その費用を助成するものです。

#### ●助成対象活動

- (1) 河川・海岸等の水辺や、水辺に関わる地域をフィールドとして行う自然体験や環境教育等の活動。
- (2) 河川・海岸等に関係するセミナーやスクールの実施、情報の提供、水辺を活かしたまちづくり（以下、「かわまちづくり」という。）に資する検討・啓発等の諸活動など等の活動。

※ 河川清掃のみを目的とした活動等は対象となりませんので、ご注意ください。

#### ●助成対象団体

市民団体、学校等の非営利団体による公益的な活動を対象とします。

#### ●助成額

1活動あたり10万円を限度とします。

#### ●応募受付期間

平成22年4月19日まで

お問い合わせ先

「水辺を活かす」活動助成事業 事務局  
財団法人リバーフロント  
整備センター企画グループ  
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号  
ロフテ中央ビル  
TEL 03-6228-3860 FAX 03-3523-0640  
URL <http://www.rfc.or.jp/>  
Email [mizubei-j@rfc.or.jp](mailto:mizubei-j@rfc.or.jp)



### 動物愛護活動への助成

郵便事業株式会社は動物愛護活動への助成の公募を行ないます。動物愛護団体の方々はこの助成を是非ご活用ください。動物愛護切手に付加の寄附金が今回の助成金原資になります。

・地域の自然や環境の大切さを学ぶための活動

#### ●助成対象活動

動物愛護に関する各種普及啓発活動、飼い主のいない犬・猫等の収容・譲渡の推進、盲導犬・介助犬等の育成普及・余生の充実等に関する事業、動物の固体識別の推進、災害時における動物の救援、非常災害等の救助活動への動物の寄与、アニマルセラピー活動、飼養動物の愛護及び適正な管理を通じた絶滅のおそれのある野生動物の保護等であり、これら事業を行うための経費が助成対象となります。経費には関係する施設の改修費用、機材の購入費用、車両の購入費用等も含まれます。

#### ●助成対象団体

日本の非営利法人で次の法人格を持つ団体。社会福祉法人、特定非営利活動法人、公益社団・財団法人等

#### ●助成額

1件あたり上限500万円（下限は特になし）。

#### ●応募受付期間

平成22年4月30日まで

お問い合わせ先

郵便事業株式会社 経営企画部  
環境・社会貢献室  
整備センター企画グループ  
〒100-8798 東京都千代田区霞が関1-3-2  
TEL 03-3504-4401 FAX 03-3592-7620  
URL <http://blog.post.japanpost.jp/csr/2010/02/post-48.html>  
Email [katsuhiro.onoda.on@jp-post.jp](mailto:katsuhiro.onoda.on@jp-post.jp)

## 老後を豊かにするボランティア活動資金

高齢者が住みなれた街で地域の住民とともに安心して生活することができるよう、地域住民・ボランティアによる高齢者のための福祉活動を奨励するために助成するものです。

#### ●助成対象活動

- ・地域の活動で内容が先駆的かつ他の範となるもの
- ・今日のニーズに対応した内容で継続性の高いもの
- ・活動の方法に工夫がみられ、他に普及したいもの

#### ●助成対象団体

ボランティア数10人～50人程度で、結成以来の活動実績2年以上。老人クラブやNPO法人等の法人格を有する団体は助成対象外です

#### ●助成額

1件あたり10万円（140グループ程度）

#### ●応募受付期間

平成22年5月31日まで

お問い合わせ先

財団法人みずほ教育福祉財団福祉事業部 藤井  
環境・社会貢献室  
整備センター企画グループ  
TEL 03-3596-4532 FAX 03-3596-4531  
URL <http://www.mizuho-ewf.or.jp>



### 「あいむ」の会議室、作業室ご利用について

会議室を利用する場合には、利用申込書に必要事項を記入のうえ事務局へ提出してください。

●申込方法/来訪、FAX、電子メール、郵送で申し込みできます。

（ただし、電話による申し込みはできません。）

●申込開始/利用しようとする3ヶ月前（休館日と重なった場合は、その翌日）から申し込みできます。

※各団体の利用限度回数は、週1回です。作業室の利用は、事前に申し込むことが出来ます。

●申込開始/利用しようとする3ヶ月前（休館日と重なった場合は、その翌日）から申し込みできます。

●本誌に関するご意見、ご要望をお寄せください。お寄せいただいたご意見等は、制作に生かすほか、本誌に掲載してまいりたいと考えています。

### 石川県NPO活動支援センター

〒920-0962 金沢市広坂2-1-1  
石川県広坂庁舎4階  
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559

URL <http://www.ishikawa-npo.jp>  
E-mail [npo@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:npo@pref.ishikawa.lg.jp)

石川県内でボランティア活動、NPO活動に参加し、活躍している若者のみなさんを紹介するコーナー『ジュニアVOICE』

第8回目となる今回は、国際保護鳥のトキを救う活動をする津幡高校の「朱鷺サポート隊」の隊長 谷口正拓君と副隊長の富澤拓斗君にお話をうかがいました。

## 国際保護鳥トキの餌の安定供給を目指す

### トキの餌、ドジョウを養殖

——「朱鷺サポート隊」はどのようにして結成されたのでしょうか？

富澤君●きっかけは先生に絶滅動物を聞いたところ、野生のトキは日本では絶滅してしまっていることを知りました。その話から興味を持ち、図書館で調べたりしました。

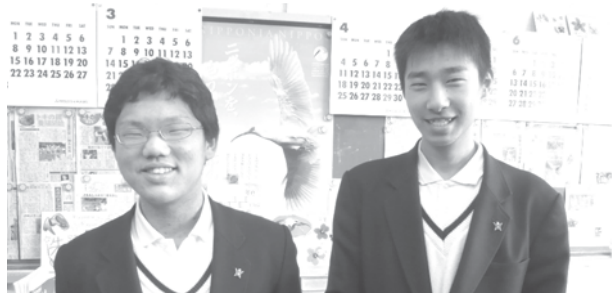
現在では、中国からトキを借りて佐渡島で繁殖し、数を増やして日本の自然にかえそうと環境省等で取り組まれています。

谷口君●石川県に佐渡島のトキが分散飼育でやってくることに對して、県民の理解を深めるバスツアーがあったので、「石川トキを訪ねる会」に出席しました。そこで昔、能登にトキがいたときのお話を聞き、かつてトキの生息地である羽咋市眉丈山に行ったりしました。昔はこの空にトキが飛んでいたのかと思い、今はいないことに寂しさを感じました。

自分でも何か役に立てることはないかなと思うようになりました。

——トキのためにどういった活動をしていますか？

谷口君●津幡高校同窓会長向正則さんの休耕田約300平方メートルを借りて昨年3月からサポート隊のみんなでトキの餌であるドジョウの養殖準備を始めました。養殖に関しての勉強をして、ドジョウを捕まえるのに適した仕掛けも作りました。5月に親ドジョウを300匹休耕田の池に放ち、繁殖させ、8月は地元産のドジョウを繁殖させようと津幡町川尻の河北潟水路で地元の学童保育「もりもりくらぶ」の児童達と一緒にドジョウ捕りをしました。児童も保護者も参加して総勢四十人が約一時間半網を手に奮闘した結果、118匹も捕まえることが出来ました。今は雪が休耕田を覆っているのでお休みしていますが10月から11月はドジョウの捕獲調査を行っていました。



隊長 谷口正拓君

副隊長 富澤拓斗君

富澤君●9月は「NPO法人日本中国朱鷺保護協会」の方々と学習会を開いてトキの生態を知り、なぜトキが日本で絶滅したのか、何がトキにとっていいのかを勉強しました。

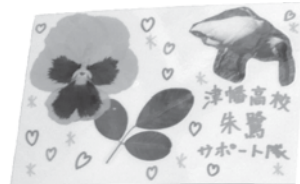
クリスマスには津幡高校と交流する津幡町立住吉保育園の園児にドジョウをプレゼントしました。

谷口君●子供達がトキに興味を持ってくれるようになぜ日本のトキが絶滅したのか紙芝居で説明したり、「トキメキカード」というカードと一緒に作って活動しています。

これらの活動はほぼ全て22日を中心に行っています。サポート隊では22日はトキの学名が「ニッポニアニッポン」であることから毎月22日はトキの日としています。



▲クリスマスにサンタの扮装でドジョウをプレゼント



▲トキの写真と押し花が彩るトキメキカード



▶ドジョウを捕まえる生徒達

### これからも続く活動

谷口君●僕たちは今三年なので、もうすぐ卒業するけれど僕たちが始めたこの「朱鷺サポート隊」の活動は僕たちの後輩が引き継いでくれます。

富澤君●高校を卒業したら「NPO法人日本中国朱鷺保護協会」に入ってトキの応援をこれからもしていきたいと思っています。

【お問い合わせ】

石川県立津幡高等学校  
〒929-0325  
石川県河北郡津幡町加賀ワ45  
TEL 076-289-4111